

# 自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム秋桜
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	男鹿市 払戸字川向47-2
記入者名 (管理者)	加藤 武光
記入日	平成21年4月20日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で信頼され、安心で生きがいのある生活が出来るように。次の5つの理念を掲げている。 1. 家庭的な楽しい雰囲気。2. 今日笑顔も忘れずに。3. 尊厳を守り、安心で生きがいのある生活を。4. 身体を優しく動かそう。5. グループ内での役割を持つこと。		
2	○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有は、運営者・管理者・職員等がともに共有し実践するため、誰もが見易い廊下に掲げている。又、職員会議、ケアプラン作成、各種の会議等でもこの理念添った考え方で介護の実践を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は、誰もが見付け易い廊下に掲げ、職員の他、家族や地域の人にも理解して頂き、この理念の実践に向け取り組んでいる。又入居の際に理念を家族に提出したり、運営推進会議等でも理念を提出し理解をして頂き、理念の啓発に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設は家庭的な雰囲気庭木や草花があり、開放的で気軽に立ち寄り出来るような環境で、地域の方々とも日常的に挨拶を交わしたりしている。		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでは、地域で行う老人の集いや各種団体で行う芸能発表会・各種行事等にも積極的に参加し地域との交流を深めている。又この他、地元で取れた野菜を頂いたり、除雪の手伝等の協力も頂いています。	○	今後も、地域とのより良い係わりを模索して参りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	○	事業所の力を活かした地域貢献が出来ないか検討 して参りたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	これからも、外部評価等の活用を積極的に活用し サービスの向上を図って参りたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	○	これからも、運営推進会議の意見等を参考にサー ビスの向上を図って参りたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、前もって契約内容や重要事項の説明、その他内容等について文書で十分説明し納得してから契約をしている。又これらについて後日トラブル等が発生しないように注意を払うよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理等は、苦情処理箱の設置等により苦情収集に努め、受付者が苦情処理簿に内容を書き管理者に報告する。管理者は内容を分析し職員と共に対処方法を検討し早急に解決を図ると共に、これらを記録し、再発防止等にも努めている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり等については、施設訪問時や面会時等を利用して報告している他、利用者の日常生活状態、健康状況等詳しく記載し、一ヶ月に一度請求書等を送付する際に一緒に送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見や苦情等については、苦情処理箱等を利用し、出来る限りこの収集に努め、管理者と職員が会議を行い内容を分析し早急に解決を図ると共に再発防止と施設運営等にもその内容が反映できるように努めている。又、重要事項説明書で秋田県運営適正化委員会に苦情申し立てを記載している。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等は、その都度受け入れているがその他職員会議での受入れ又、施設運営やサービス向上のため、入居者処遇会議、ケアプラン会議等でも意見を取入れ施設運営に反映できるように努めている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	介護保険法で定められた基準を満たす勤務表で人員配置を行っているが、緊急の時や不測の事態にも対応やできるように、管理者・経営者の特別出勤や臨時的介護員（非雇用）等で対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が、馴染みの介護員から長く介護を受けられるように、介護員みずから退職や不祥事を起こさない限り、末え長く勤務できるようにしている。又、介護員が辞めた場合でもすぐに入居者に伝えず、時間の経過と共に忘れられるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等については、法で定められた事業開設者研修、管理者研修、介護支援専門員研修、認知症介護実践者研修等の他に実践者リーダー研修又市町村や団体等の行う研修等についても必要に応じて適宜参加できる機会を設けサービスの向上に努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人情報等の漏洩に配慮し、他業者との交流や地区のグループ協会でも、経営者部会、管理者部会、介護員部会毎に研修会や意見交換等を行っている。又今後もあらゆる機会を通して研修等に参加して頂き職員の資質の向上を図ってまいります。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場は、明るく風通しの良い職場作りのため、「報告、連絡、相談」を掲げ一人で悩まないことを目標にしています。又、休憩等は8畳床の間付きでゆっくり休み、勤務は常勤でも月20日以内、忘年会、各種行事の後には食事や会話等でストレス発散に心がけている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員には、自信と誇りを持って、やり甲斐のある職場にして頂くため、ホームの理念を理解させ、利用者・家族から感謝される介護に喜びを感じるための知識を与えるようにしている。又そのためには、研修等の機会を与え、自信と問題意識を持たせ、良い面を褒め、各自の向上心を図るようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者が、何でも話せる環境作りのため、理念に基づき、笑顔で接し、楽な雰囲気の中で、相手の悩みや困った事を聞き、絶対にこれを否定しないで、むしろなずいたりして、共感の態度を示し、相手が何でも話をできるような環境作りに努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何でも話せる環境作りの中から出来るだけ多くの情報を収集し、この中から家族の求めているのは何かを把握し、これに対し、出来ること出来ない事を、懇切丁寧に説明し、相手の理解を得て解決に向け努力し、信頼関係を確立して行くように努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手からの相談内容が、何にを目的としているか、その内容に応えられるか等を、本人の身体能力、認知の状況、介護力、経済面等から総合的に判断し、一番妥当と判断されるサービスを提供している。又、内容等から他のサービスが妥当と判断される場合は、他のサービスを説明し、紹介している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス提供に際し、その内容を十分説明し、納得した上で利用して頂き、利用者に違和感のないよう他の利用者に紹介したり、協力を頂いたりして周囲に溶け込める配慮や工夫をしています。又早く施設に馴染んで頂くめ、家庭の延長と安心感を与えるため、普段家庭で使用している食器、衣類等を持参して頂いている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が共に暮らしている雰囲気作りの中で、特に職員達が知らない時代の話を聞き、感心したり、褒めたり、共に喜怒哀楽の機会を持ったりしています。又昔の季節の行事や畑作りの方法を学んだり、戦争当時の自慢話等で入居者に自信と生きがいを感じさせ共に暮らしている状況にある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者支援は、職員だけでなく、家族と共にサポートするため、家族から本人のこれまでの生活ぶりや長所・短所・特に注意する点等を聞いたりして、介護計画にも参考にしてている。又家族には、訪問時・各種行事等にも多く参加して頂き、生活ぶりやエピソード等を三者で話し入居者には、皆で支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族との関係を支援するため、各種行事で共に楽しむ機会を多く与えお互い思いが結びつくような働き掛をしている。又、訪問時には、大切なプライベート等の話が長時間でもゆっくり出来るように配慮し居室を提供している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流が継続できるように、プライバシーに配慮し、親子電話の子機を使って居室で何時でも自由に電話等ができるようにしている。又本人が連絡先が分からない時は電話帳で調べたり、家族に聞いたり、電話を掛けられない場合は、職員が出来ない部分を支援をしている。手紙の支援もできる。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で、介護員が入居者の性格、生き立ち、身体状況等がお互いに理解し、助け合えるような話し掛けをしている。又ゲームやレクリエーション等では、車椅子を押してあげたりして、お互いの弱点を支え合う気持で行っています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も、入居者やその家族等からの要望や相談が有れば何時でも応じる体制を取っています。又、退所利用者には、居宅介護支援事業所や各介護機関等へも、その後の利用状況や日常生活ぶり等についても聞いています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望等は、契約時に本人・家族等から生活歴、身体状況、ニーズ等を詳しく聞いているが、その他日常生活の中での特技や行動・態度等から個別の介護計画作成。又意志表示の困難な方でも、行動・態度等から何をしたら喜んだか或いは表情が和らいだかを参考に把握に努めています。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況等については、入居時に家族や居宅介護支援事業所等から出来る限り多くの情報収集に努めているが、このほか、日常生活を通して本人の生きが、心身の状況の変化を見極め、常にその人に合った個別の介護計画に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方から、これまでの生活歴・馴染みの暮らし方・心身の状況・生きがい等に変化がないか等を把握し、総合的に判断しながら、その人に合った全人的な介護を支援するように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、本人・家族等の要望や個人因子の心身機能状況や活動・参加の出来、環境因子等出来るだけ多くの情報を基に、職員によるケアプラン会議を実施している。又その他、その人の特技、趣味等も加えたニーズや課題等も分析して、その人に合ったその人らしい介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には、短期目標と長期目標を掲げ、6ヶ月毎に見直しを行い実施しているが、見直しを行う前に、入居者の心身に変化が生じ、早急に見直しが必要な場合があります。この場合は早急に、臨時の会議を開き、職員・家族等でその対応を協議し、新たな介護計画を立てて実施している状況であります。	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	事業所の機能を活用した支援を検討して参りたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している</p>	○	社会資源の活用をもっと利用して行きたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	クループホーム退居後も、本人がダメージを受けることなく生活できるように、家族や関係者に今までの日常生活状況や身体状況、注意すべき点等を詳しく伝え、今後の生活に支障のないように努めている	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は、常に入居者の人権や尊厳を守り、言葉や対応についても、決して誇りやプライバシーに傷を付けない介護をお互い注意しながら目指しています。又個人情報等についても、職員に注意を促している	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人の希望と生きがいのある生活を支援するため、尊厳を守り、その人の特徴や特技を生かした支援やその人の望む物を見出し、ゲームや生活に取り入れたり、又日常会話等の中から本人の思いや希望を聞きその実現に向け利用者出来るように努めている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	日常生活には、食事・入浴・排泄・おやつ及び機能訓練等の固定的な日課の他に入居者の希望等による流動的な行事があり、これが毎日、月の行事表で定められております。これが職員の都合に関係なく入居者の希望や体調等の変化によって対応される場合がある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	身だしなみ、おしゃれ等は、本人の好みや季節感に合わせ衣服等の選択をしている。又理容等については、毎月施設訪問の理容店に髪型や髪染め等を好みに合わせ利用者が直接御願ひしていただく状況です。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている</p>	<p>全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいます。但し入居者の帰宅願望等が激しく、通常の介護では生命や身体の安全を守ることが困難な場合に限り玄関に鍵を掛ける場合がある。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員は、常に入居者の安全確保に努めるため、入居者の多く集まる食堂を中心に目配りをし乍ら、又誰が、どの室で、何をしているかを確認し、お互い声を掛け合い、全員の安全に努めるようにしている。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>注意を要する物でも必要な物品があるため、事業者は、利用者の認知症の状態を把握しながら危険を予測される包丁、鋏、ナイフ等については、それぞれの保管状況を把握し、事故等のないよう安全管理りに努めている。又出来るだけ入居者と行動を共にし事故の未然防止に努めている。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故は特に、転倒、窒息、誤嚥等に注意し又、日々の生活からヒヤリハット等を記録しその原因を究明し、個々の症状に応じた対応策を立て事故の未然防止に努めている。又、火災等については、年二回の避難訓練を実施し、入居者や職員が常に災害発生時において落ち着いて避難出来るようにしている。</p>	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に備え、職員には、心肺蘇生法や異物の飲み込み防止・出血止め等を指導し、又対応困難な場合や救急車依頼等についても、緊急時の対応マニュアルや居間に掲げてある災害時対応連絡網により管理者の指示を仰ぐ等で対応している。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災・地震・水害等の災害における対応として、年二回の避難訓練を実施し、消化器の使用法や自動火災報知器利用の火災現場の早期発見、避難方法等を行い、利用者や職員が、いつでも、慌てず、落ち着いて避難できる体制を日頃から身に付くように指導をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	管理者や職員が日常の介護を通して、利用者個々の身体状況や精神症状等を把握し乍ら、事故等を起こさせないために様々なリスクの危険性を予測し、事故を未然に防止するため、家族等にはその内容を詳しく説明し理解を得ながら対応策を協議している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調管理については、毎日、介護員は、血圧、脈拍、体温等のバイタルチェックを行っている。又この他、顔の表情、食欲、睡眠、身体の動き等から総合的に判断し、特変や異常等が発生した場合には、速やかに職員が管理者等に連絡し内容を分析し今後の対応策等を協議し迅速な対応に努めている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は、薬局からの処方箋に基づき、薬の効用・副作用・用量等が誰でも分かるように服薬管理簿に綴られている。又薬が誤って使用されないように個人毎の薬箱に、朝・昼・晩等に分類し管理している。服薬効果や症状の変化等は医師に伝え、今後の症状等に適切に対応出来るように努めている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については、毎日の排便状況を介護日誌に記載し職員が個々の排泄習慣や身体症状に応じ原因を究明しその内容をお互いに共有し対応策を協議している。原因は、治療薬の影響や運動不足・水分不足・食事関係等によるものもあり、原因により繊維の多い食材使用や水分補給又運動等を行い、内容分析と経過観察に基づいて対応している。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔保持は、自分で出来る人と出来ない人がおり、認知症状等により清潔保持の判断も異なり清潔不十分な利用者も多く、清潔保持の困難な利用者には、毎食後必ず介護員が付き添い口腔ケアについて本人が出来ない部分について支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養等を把握するため、個人ごとの介護日誌に朝・昼・晩の食事の量や残食状況・嗜好状況等を記載し、その人の栄養摂取状況を把握し、バランスと取れた食事提供に努めている。又一日のカロリー摂取量等からメニューを変えたり、水分補給や体重測定での運動等を含めその人健康管理に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策には、インフルエンザをはじめ、ノロウイルス・M. R. S. A・レジオネラ症、結核等の感染予防対策マニュアルを作成し、職員全員にこれらの知識を与え、基礎的知識の手洗い、うがい等の他来訪者への協力や他浴室・調理や掃除等の各器具への消毒等各種マニュアルに基づき予防に努めている		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防は、定期的な冷蔵庫の掃除や調理場の清潔保持・調理器具への消毒・調理員の手洗い・食品等の保存期限の点検等を行い、出来るだけ新鮮で鮮度の高いものを使用するように努めている。又食べ物は出来るだけ加熱し安全性を高め、食べる直前に調理し余った物はすぐ処分し常に清潔保持に努めるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の家族や近隣の方々が気軽にホームに出入りし易いように、中庭や玄関周りには草花があり自然を感じさせ、又玄関も引き戸で開放感があり気軽に訪問できる環境にある。施設も民家改修型で家庭的な雰囲気があり、施設としての抵抗感が少ないようになっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は、民家を改修したもので、中庭の他、玄関・廊下等の共用スペースも広く、機能訓練の場としても使用している。又、共用空間としてはウッドデッキの利用が多く、外の景色も眺望でき、入居者の気持ちを落ち着かせている。又台所・浴室・トイレ等も家庭的な環境にあり家庭の延長を思わせるようになっている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での利用は、食堂や居間でのテレビ観戦や会話の場となっている他、特に、入居者が一人になりたい時や行き場を失った時等は、ウッドデッキの利用が多く、ここからの中庭の草花が自然を感じさせ入居者の心を落ち着かせている。又、玄関や洗面所、外の中庭・畑等も利用されている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>周囲は田園地帯に隣接し、比較的安全に散歩等が出来る。又施設は民家改修の家庭的な環境が保たれ、特に、中庭の草花は自然の植物が植えられ、季節の移り変わりが楽しめ入居者の心をなごませている他、ウッドデッキでの景色の眺望や夏祭り等の各種行事にも活用出来るようになっている。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない</p> <p>①ホームの職員は、利用者がどんな思いや生活を望んでいるか等について、本人の意思や日常生活の行動等から把握・分析しお互い共有し合い乍ら解決に向けた介護の実践を図っている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>①一日の内特に、食後の時間やおやつ・就寝前等で季節の食べ物やその人の昔の生活歴や悩み等を話したりして職員とゆったり過ごす場面がある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①利用者には、身体状況や気分等に応じ、本人の意思を尊重しながら、出来るだけ自分のペースで好きな生活が出来るように支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①利用者には、何でも支援するのでなく、その人の心身の状況を把握し、残存能力を引き出し乍ら出来ない部分を支援し、本人に達成を持たせ喜びや生き生きした表情等を引き出せるようにしている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②利用者の意思に基づき、地域の芸能発表会や施設見学・観光地へのドライブ等がある。又これらの要望には積極的対応している。(身体状況等から、外出の困難な方もいる。)</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①利用者には、毎日のバイタルチェックや心身の状態を把握し安全に努めている他、本人や家族等の要望により好きな医療機関の受診が出来るようになっている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①利用者には、心身の状況や情勢・要望等により本人の意思を尊重した柔軟な対応が出来るように努めている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない</p> <p>①職員は、面会や訪問時等を利用し、家族から困ったことや悩みごとを引き出し、家族の意思に基づき誠意を持って迅速な対応に努め、懇切丁寧に説明し、信頼関係を築いている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>①ホームは、中庭や玄関付近には、草花があり、家庭的で開放感があり、又訪問し易い雰囲気にあるため、親戚や家族等の訪問が多くなっている。</p>

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	①地域住民等は、運営推進会議を通して、地域交流も深まり、又助言や施設の内容等を良く理解して頂き、夏祭り等にも参加して施設の応援者になって来ています。
98	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①職員には、明るい風通しの良い職場作りのため、1.報告、2連絡、3相談を掲げ、問題を一人で悩まず、皆で解決し、入居者・家族等からの感謝の言葉に生き甲斐を感じています。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①利用者の意思を尊重した介護に努めているが、利用者から笑顔や有難うの言葉があり、又意思表示困難な方でも表情の柔らかさから感謝の気持ちが感じられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	①家族等からは、面会や訪問時の際に、感謝の言葉が多く、又家族の要望や利用者の問題点の解決状況を話した時の笑顔や表情が明るく満足度も高いと思っています。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設は、民家改修型で中庭の草花が四季の変化を思わせ家庭的な雰囲気があり、ウッドデッキからの眺望にも自然を感じ、入居者に安心とやすらぎを与えている。